

試料・情報利用研究計画書(概要)

研究番号	2024-1040	利用形態	共同研究		
研究題目	IgA腎症における抗メサンギウムIgA抗体産生責任遺伝子の同定		研究期間	2025年2月 ~ 2027年3月	
主たる研究機関	順天堂大学医学部腎臓内科	責任者氏名・職	鈴木 祐介	教授	
分担研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	小柴 生造	教授	
分担研究機関	東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科	責任者氏名・職	平川 陽亮	助教	
研究目的と意義	<p>慢性腎臓病(CKD)は多因子疾患であり、患者QOLや医療費の負荷などの観点から重要な公衆衛生上の課題である。このCKDのうち最大割合を占める難病がIgA腎症である。IgA腎症は世界でもっとも頻度の高い原発性糸球体腎炎で、特に日本をはじめとするアジア諸国に多く発症する。さらに約30-40%は末期腎不全に至る予後不良の疾患である。</p> <p>研究担当者の順天堂大学のチームは最近、IgA腎症患者の血液中に、腎臓糸球体のメサンギウム細胞を標的としたIgA型の自己抗体(抗メサンギウムIgA)が存在していることを見出した。このことから本症において、IgA抗体が腎臓に沈着し炎症を生じさせる機序に、抗メサンギウムIgAが関与している可能性が示唆された。しかし、抗メサンギウムIgAがどのようにして産生されるのか、特に、どのような遺伝子異常が、この抗体の産生に関わっているかについては未だ不明である。</p> <p>このため本研究では、抗メサンギウムIgAの産生に関わる遺伝子の同定を進め、将来的にIgA腎症を早期に診断する方法を確立する。</p>				
研究計画概要	<p>抗メサンギウムIgAの産生に関わる遺伝子の同定をおこなうため、東北メディカル・メガバンク機構の地域住民コホート参加者の中から尿潜血陽性と陰性の方をそれぞれ抽出し、対象者の血清中の抗メサンギウムIgA抗体を測定する(IgA抗体の測定は順天堂大学で実施)。測定結果はメガバンクのスーパーコンピュータに格納し、既にGWAS等で報告のあるIgA腎症疾患感受性遺伝子群との関連を解析することで、抗メサンギウムIgA産生に寄与する遺伝子を同定する。</p>				
利用試料・情報	<p>対象:東北メディカル・メガバンク計画 宮城県の地域住民コホート参加者 最大2,000人 試料:血清(1検体あたり:50uL程度) 最大2,000人(血尿陽性、陰性、各1,000人) 情報:基本情報(年齢、性別)、血液学的検査情報、生化学的検査情報、免疫学的検査情報、尿検査情報、生理機能検査情報、調査票生活習慣情報、調査票食情報、罹患歴、服薬情報、特定健康診査情報、ゲノム情報、メタボローム情報</p>				
期待される成果	<p>IgA腎症を早期に診断する方法を確立することで、IgA腎症を原因として末期腎不全を発症する患者数の減少に繋がる。</p>				
倫理審査等の経過	<p>2025年1月 順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会</p>				
倫理面、セキュリティー面の配慮	<p>ToMMoにおいて個人情報を加工した試料を用いるため、順天堂大学に提供する資料には、個人が特定できる情報は含まれない。ToMMoから提供される情報は、機構内にあるスーパーコンピュータの共同研究区画に必要なデータを置き、スーパーコンピュータ上で解析を行う。順天堂大学と東京大学では匿名化された情報のみを取り扱う。</p> <p>研究の結果を公表する際は、研究対象者を特定できる情報を含めないようにする。また、個人情報の取扱いの制限と権限を研究責任者および研究分担者に限定する。</p>				
その他特記事項	<p>この研究は受託研究費(AMED)により実施します。</p>				
	<p>*公開日 2025年3月6日</p>				